



プール開き ～プールカードへの保護者押印をお忘れなく～



6月18日(月)から体育の授業で、子どもたちの大好きな水泳の学習がいよいよ始まります。保護者の皆様には準備物・プールカードなどお手順をおかけしますが、ご協力よろしくお願い致します。

本校では、プール入水の際、プールカードに保護者印がない児童については入水を許可していません。これは、保護者がきちんと

とその日の朝のお子さんの体調を確認され、入水に問題がないと判断されていることを把握するための措置です。朝、保護者の押印をもらい忘れたため、児童本人がサインを記入するといったこともありましたので、押印に代わるサインについても認めていません。

また、保護者からの電話による許可の申出及び担任からの電話確認についても、一切行っていませんので、プールカードへの保護者押印については、くれぐれもお忘れのないようご注意願います。水泳指導につきましては、事故防止に向けて細心の注意を図って実施しておりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いします。



暑さ対策 ～学校へのスポーツドリンクの持参について～



例年より暑い日が多くなりそうな予報が出ていますが、そろそろ熱中症が心配されるようになってきました。子どもたちが健やかな学校生活を送れるよう「暑さ対策」もしっかりしていかなく

てはならないと思います。保護者の方から毎年「熱中症になる恐れがあるので、スポーツドリンクを水分補給のために持参させてほしい。」との申し出が数件寄せられますので、改めて学校としての考え方と対応についてご説明させていただきます。

本校では、学校へのスポーツドリンク等の持参については認めておりません。

専門医の話によると、室内では水や麦茶で十分ですが、外出中や運動時には塩分を含む水やスポーツドリンク等が最適だそうです。ところが、「ノーカロリー」の表示があるスポーツドリンク等についても、砂糖は使用されていないものの、多量の添加物を摂取してしまうことになるため、飲み過ぎには十分注意する必要があるそうです。

のどが渇く前に定期的に水分を摂取することが何より大切であるとのこと。学校の水道水は生水であるため飲料用としては勧めていませんので、一日に必要な量の麦茶等を持参できるようご協力をよろしくお願いします。

学校での対応

- 持参した水筒のお茶をこまめに摂らせることにより、水分補給を行います。
- 熱中症については、高温多湿の中での発生が多いことをふまえ、炎天下での長時間の活動時には十分配慮するとともに、教室内が高温多湿とならないよう換気に努めます。
- 熱中症の症状がみられた場合には、保健室等の涼しいところで体を冷やすとともに、学校備え付けの経口補水液やスポーツドリンクを飲ませます。



羽津中学校職場体験 ～中学2年生6名が来てくれました～

6月6日～8日の3日間、羽津中学校の2年生(男子3名・女子3名)が職場体験に来てくれました。

この職場体験は、生活体験・社会体験が不足しがちな中学生が、実際の職場で仕事を体験し、学校では学べないことを体得することをねらいとしています。将来の職業や進路に対する理解を深め、働くことの厳しさや苦労、喜びなどを体験するとともに、人との接し方や社会生活における規範を学んでほしいと思います。

本校の卒業生でもある6名の中学生には、1年生の各クラスに2名ずつ入り、「先生」としての仕事を体験してもらいました。日頃は教えられる立場ですが、この3日間は教える側として過ごさなければなりません。最初は緊張しながらも、かわいい1年生と接していくうちに自然と素敵な「先生」になっている姿が印象的でした。



P T Aからの寄贈品 ～大切にに使わせていただきます～



カラーマット



大玉

30年度のP T A特別会計から「カラーマット」「大玉」の学校備品を購入していただきました。昨年度は、国語辞典、スクールタイマー、ビデオカメラを購入していただき、子ども達への教育活動に役立たせていただいております。

カラーマットにつきましては、傷みがひどく使用に耐えられない状態となったため、また、大玉は運動会の競技の練習等で使用するとき、数が不足していましたので、P T A本部役員のご承認の上、購入していただきました。これからの日々の教育活動で大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

今、学校が大切にしていること ～自己有用感を高める～

今、学校で大切にしていることは、行事や学習に取り組むとき、子どもが「こだわった」「見てほしかった」ことなど子どもの思いを受け止め、その思いに対する評価をすること(「認める」ということ)です。大人の側の基準で単に良かった・悪かったと評価するだけ(「ほめる」だけ)ではなく、子どもの分かる言葉で具体的に伝えることです。結果が大人の基準ではできていない失敗だとしても、結果ではなく努力したことを認め、また、

失敗をいい反省の材料として認めることができる周りの雰囲気大切に考えています。このような体験を通して「自己有用感」は高まります。「自己有用感」は、人の役に立った、人に喜んでもらえた等、周りの人の存在なしには生まれてきません。最終的には自己評価であるとしても、周りの人からの評価やまなざしを強く感じたうえで「自己有用感」は育つという点がポイントです。

学校では、自分の周りの集団(学校・学級・家庭・地域など)の中で自分の居場所を感じること、誰かの役に立ちたいという成就感、誰かに必要とされているという満足感を子ども達がもてるよう取り組んでいきます。

ご家庭でも、子どものちょっとした気遣いに「ありがとう」の一言を、さらに「ありがとう。お母(お父)さんはうれしいわ」と感激も伝えていきませんか。

